

常に新しい技術開発に挑戦

こゝに5月に逝去された建築構造家の川口衛先生は、いつおじい考え方を教えてくださる素晴らしい先生でした。建築家・丹下がした坪井善勝の第一のお弟子として、國立代々木競技場の構造設計技術の開発を目指す先生でした。地元杉材をどんどん使つた先生が尊敬するイザムバード・キングダム・ブルネルに由来するで初めて受賞しました。私は、東工大的学生のころ、日本建築学聴いて以来、設計をお手伝することもあり、弟子の1人としてお受け継いだ考え方などを追悼文として寄稿させていただきます。

寄稿
東京工業大學名譽教授
和田 章



追悼・川口衛先生

ていただきますか。川口先生の基本的なお考えがよく分かります。

を得る」とか「可能になる場合が少ない」
くない。

学をもとに、自然の摂理に叶うように設計して構築されますが、人体に動物のデザイン、美の花の大木

会いしても穏やかで、思慮深い新健三の作品の構造設計で功績を残して参画しました。常に新しい構成作で、宮崎県日向市駅は、川口「アルネル賞」を駆使として日本会のセミナーで川口先生の講演を世話になりました。川口先生から

貢献である。建築は彫刻などとは異なり、スケールの大きな実体である。したがって彫刻のように作者の望むかたちをそのまま表現することは一般に不可能で、その中を流れる力の大きさや原理に適した造形だけが実現可能である。逆に、構造の中を流れる力の原理を直接、間接に表現することによって、建築に固有の、美しい造形われわれの知らない建築や橋梁を見たし、丁寧に解説してくださいました。この旅行の間に教えていたいたいともたくさんあります。

東日本大震災の惨状を説明する者・設計者を紹介していただき、この旅行の間に教えていたいたいともたくさんあります。

に印度のデリーに一緒したときにお聞きした1つのお話を紹介します。「建築や橋梁は、過去の経験から人間が築いてきた材料力学・構造

建築、構造、人びと、すべてに愛を込めて、多くの仲間とともに日本だけでなく世界に素晴らしい建築を育ててくれた川口衛先生が5月29日に86歳でご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

ここに川口先生が1990年に著された「建築の絵本、建築構造のしくみ?力の流れとかたち?」があります。「前書き」の一部を引用させます。

構造の技術は建築の世界で次の2つの大切な役割を果たしている。その1つは安全性の確保である。建物が地震や台風に耐え、果たすべき機能を十分に発揮するためには、構造の知識や技術が不可欠である。

構造が果たしているもう1つの重要な役割は、建築の美しさに対する立場から建築のかたちについて述べたものである。

近木の「部材の形狀をS字型にする工夫」という考え方から、部材の形狀をS字型にする工夫と相まって柔らかい曲線の梁をシャープな直線の鉄骨が支えるという造形美を生み出した。柔らかい材質のスチールを大規模空間に使う課題を解決するため、地場スチールを使ってほしいという想いを込めて、この

などか最も分かりやすい例です。方的に強風を受ける木の根は自動的にこの風力に耐えられるように広ります。

方的に強風を受ける木の根は自動的にこの風力に耐えられるように広がります。われわれの構築する社会を大きくなり量を分かりやすい例です。

1つの体と考えたとき、これらが然の猛威を受けて悲惨な被害を受ることがあります。われわれはこれらの災害から多くを学び、同じくが次に起きないように努力します。これも人類社会のホメオスタシスと言えます。

方的に強風を受ける木の根は自動的にこの風力に耐えられるように広がります。

われわれの構築する社会を大きくなつたのとを考えたとき、これらが必然の猛威を受けて悲惨な被害を受けることがあります。われわれはこれらの災害から多くを学び、同じくが次に起きないよう努めします。これも人類社会のホメオスタシスと言えます。

世界の構造設計を率いた巨星



(写真) 内藤廣建築設計事務所

人生100年と言われる時代です。もつと色々なお話をお聞きしたいかったたと思い、ご逝去されたこと本当に残念でなりません。